

令和5年度 上田市立南小学校 学校自己評価シート

学校目標	めざす子ども像 ～笑顔輝く南っ子～			総合評価								
あたたかく ただしく たたく	1 すずんで勉強する子ども 【ただしく】 2 体をきたえる子ども 【つよく】 3 がんばりぬく子ども 【つよく】 4 自分で決めて行う子ども 【ただしく】 5 思いやりのある子ども 【あたたかく】			新型コロナウイルス感染防止へ配慮する基準が変わったことで、以前のような行事・交流活動が行えるようになってきた。行事としては、全校児童が体育館に入っの音楽会を行うことができ、他学年の発表を聴きあい、良さを感じ合える貴重な機会となった。児童会やその他の学習活動でも、交流することの制限がなくなってきたことで、児童がより前向きに取り組むことができるようになってきた。児童が自分で考えたり、自分から活動をしたりする姿を学校全体に広めていくために、更に丁寧な指導をしていきたい。								
	今年度の重点目標(重点活動)			成果と課題				A	B	C	D	改善策・向上策
	知:正しく	わくわく学び合い	自分の考えを持ち表現する	全校で集まる機会が増え、以前より学年を越えてお互いを意識できる場が増え、あいさつが響き合うようになってきた。より気持ちの良いあいさつができるようになるため、相手意識をもつようになっていきたい。授業でペア・グループ学習を意図的に取り入れたことで、自然と話し合ったり相談し合ったりする姿が見られるようになった。更に意見を交換していけるような授業を考えていきたい。清掃に自分から取り組みかけた。特に高学年は、めあてをもって取り組み、低学年の見本となる姿が見られた。					○			あいさつ・清掃・安全については、職員共通理解のもと、丁寧に指導をしていく。良い姿を認め、広めていけるように意識していきたい。交流活動を更に進めていく。
	徳:温かく	にこにこ響き合い	自分から進んであいさつする					○				
体:強く	どんどん磨き合い	根気よく清掃に取り組む						○				

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
教育活動	学年・学級経営	気づき清掃の推進・奉仕精神の醸成	ひざつき清掃など、具体的な清掃の方法を指導し、自分から気づいて前よりきれいにすることで、協働することのよさや奉仕の大切さを意識させることができたか。	手順を覚え、自分から清掃に取り組まれる児童の姿があるが、その一方でおしゃべりをしている児童が多いという印象もある。掃除のやり方を理解していない児童もいるので、事前指導・役割・やり方の確認をしっかり行う必要がある。また、児童会の企画や呼びかけにより、時間いっぱい取り組んだり、しゃべらないで取り組んだりする児童の姿があった。一方で企画が終わると意識が薄れてしまう姿があったので、継続していけるように声をかけていきたい。			○		掃除の事前指導・役割・やり方の確認をしっかり行う。特に掃除分担が大きく変わるときに丁寧に。現地に行って、実際にどうやるか細かく説明し、清掃が始まってからそれができているか確認、指導していくことが必要。個人によって取り組みの差があるので、良い取り組みを広めていくことで全体も向上させていく。
		規範意識の高揚と危機管理意識の向上のための指導	校内生活で「右側廊下歩行」の徹底をさせて規範意識の高揚を図れたか。通学時に「道路横断前後の立ち止まり(確認・挨拶)」を意識付け、実践させることはできたか。	廊下歩行に関しては、右側歩行を意識して落ち着いて歩く姿が多くみられるが、廊下全体に広がったり、走ったりと課題がある児童もいる。登下校の意識は、子どもたちに伝え続け、できるようになってきていることは多いが、誰も見ていないところでは、止まっていない姿がまだまだある。グリーンゾーンをはみ出して広がって歩いたり、地区の方に声をかけられても返事を返せないなどの姿もあり、引き続き指導が必要である。			○		廊下歩行に関しては、職員が見ていても見えていなくても当たり前前の行動がとれるようにしたい。児童会での呼びかけ、全職員が児童の良い姿、気になる姿に声をかけていく。登下校の道路歩行、横断等については、改めて練習し、危険性について考える機会を設けていきたい。
		気持ちのよいあいさつの充実と返事の徹底	積極的な声かけや児童会活動との連携で、気持ちのよいあいさつや返事のよさを自覚させ、快適な学校生活に向けて取り組んでいるか。	児童会を中心とした朝のあいさつ運動の取り組み等により、あいさつをしようという意識や姿勢が高まってきている。一方で、声をかけないとあいさつをすることができない姿も見られる。相手を見る、伝わる声であいさつをするなど、相手意識をもってあいさつができるようにしていきたい。また、場に応じた言葉遣いには課題が残る。場面場面、指導していくようにしていきたい。			○		引き続き児童会を中心として、気持ちよくあいさつできる活動に取り組み、よい姿を認め合い、更に広めていけるようにする。また、あいさつの良さ、意味について子どもたちと考える時間を設け、相手意識をもったあいさつができるようにしていく。
	学習指導	響き合う歌声や交流活動による認め合える仲間づくり	仲間と歌声を響き合わせたり、異学年や地域の方々とのふれあい交流を行ったりすることで、互いに認め合える集団づくりを進めているか。	音楽会に向けての歌声づくりや、児童会活動の縦割り班でのレクなど、今までできなかった活動が行えるようになり、交流の幅が広がった。音楽集会で他学年の声を聞いたり、全校の中で歌ったりすることで、お互いの良さに気づくことができた。拍手し合う温かい音楽集会になった。			○		音楽集会や児童集会を計画的に行い、異学年交流の場を設けていく。総合的な学習の時間や行事などを通して、更に異学年交流を図っていく。音楽集会のやり方の工夫をすることで、歌うことへの意識をさらに高めていく。
		授業のユニバーサルデザイン化・南小スタイルの推進	校内及び教室環境や教材の整備ができたか。「学習問題」「まとめ」を板書計画に位置づけ、授業の流れがわかる板書の工夫ができたか。	学習問題、学習課題、まとめと、子どもたちと授業の流れを確認して授業を行ってきた。目指す姿を明確にして授業づくりに取り組んでいきたい。はじめとおわりの時間を意識し、授業の流れがわかる工夫をしてくることができた。			○		それぞれの学習活動でつけていく力を明確にしていく。引き続き授業の流れがわかる工夫をし、振り返り、まとめに子どもの言葉や思いを取り入れて、学びの実感が持てるようにしていく。
		じっくり考え、しっかり書く振り返りの時間の確保	1時間で学んだ内容を書いたり、学び方を振り返ったりする時間を確保し、子どもの考えの変容や定着状況を確認しているか。	振り返りの時間を取ることを意識して取り組んできた。振り返りの時間が短くなってしまっているがあるので、しっかり時間を確保することが必要である。子どもたちは時間を確保すれば書くことができるようになってきた。「じっくり考える時間」を大切にしていきたい。				○	子どもたち自身が自分の言葉でまとめていけるように逆算して振り返りの時間を考えて授業づくりをしていく。振り返りの時間の確保、振り返る内容を的確に提示するなど授業スタイルを考えていく。
地域との連携	学校作り	基礎基本の定着・家庭学習の充実	ドリルや学びの時間で、つまづきを把握して、丁寧な指導を行い、基礎基本の定着を図れたか。「家庭学習の進め方」をもとに家庭と連携した家庭学習の充実に努めているか。	学びの時間を使って少し個別指導をすることができた。家庭学習については、内容や量について工夫し取り組みやすいようにしているが、取り組むことが目的となってしまっているところもある。なぜその宿題を出しているのか、どういことをその宿題で意識して欲しいのか、子どもたちや保護者と目的を確認していきたい。			○		家庭学習の在り方について、学校として共有し、家庭にお伝えして協力を仰いでいく。
		わからないことを聴き合い、考えを伝え合い、学び合う授業づくり	ペアやグループでわからないことや互いの考えを聴き合い、自分たちの考えを深め合い、それを伝え合い、それを伝え合い、学び合う授業づくりしているか。	ペア・グループ学習を位置づけ、考えを伝え合う活動を取り入れてきた。伝えることの抵抗感はなくってきており、自然と話し合ったり、相談したりする姿がある。更に、子どもたちが必要感を抱いたり、目的を持って取り組んだりできるように位置づけていきたい。			○		今後もペア・グループ活動を取り入れ、話をするのが楽しい時間としてとらえられるよう、繰り返し行っていく。グループでの発表にとどまらず、自分の考えを伝え、それについて意見交換していく活動になるよう意識していく。
		信頼関係でつながる学校づくり	学校・学年・学級だよりや懇談等を通して、学校での子どもの様子を伝えたり、うれしかったことや心配なことなど個別に連絡を取り合ったりすることができたか。	学年通信、学級通信を通して、保護者に様子をお伝えしてきた。必要に応じて懇談の時間を設けたり、電話でお話ししたりして、こまめに情報交換をすることができた。				○	今後も良い姿や学級全体としての姿、子どもたちのやり取りの様子などを学年通信や学級通信で伝えていく。心配なことがあるときには、保護者と連絡をとり、共有することを大切にしていく。
		南っ子応援隊の活用・三点固定の生活習慣の確立	地域の方と連携した教育活動を昨年以上に広めることができたか。家庭と連携してメディアと向き合う時間・家庭学習時間・就寝時刻等の固定による望ましい生活習慣の育成を図ることができたか。	読み聞かせボランティアの方に読み聞かせに来ていただき、充実した読書時間を設定できた。学級懇談の際にグッドメディアデーの取り組みや子どもたちの様子について共有することができた。また、社会科や総合的な学習の時間を通して地域の方々と交流し、学ぶことができた。メディアに関しては家庭により差があり難しいところもあるが、学校だよりや学年だよりなどで継続して発信していきたい。				○	グッドメディアデーに取り組んでいるが、その場限りで終わることなく、毎日がグッドメディアデーになるよう、家庭と連携していく。

※評価基準 A…達成できた B…おおむね達成できた C…やや達成できなかった D…達成できなかった